



三野博司さん新会長に——坂本前会長ご苦労さま！

——総会を機に交代（2/11）——

1月13日に開かれた理事会で、坂本会長の辞意表明を受け、三野博司副会長を次期会長とすることが、全会一致で承認されました。そして2月11日の総会をもって、三野さんが奈良日仏協会の第5代会長に就任しました。

三野新会長はフランス文学者で、奈良女子大学文学部教授です（2010-13年 文学部長）。1949年京都生まれ、京都大学文学部を卒業後、大阪市立大学を経てクレルモン・フェラン大学で文学博士号を取得。日本カミュ研究会の代表、国際カミュ学会副会長でもあります。創立間もない頃の奈良日仏協会に入会し、2009年以来副会長として会を支えていただきました。学者らしい穏やかな雰囲気と共に、内なる強い意志と着実な行動力をお持ちです。このように立派な人物を会長に戴く奈良日仏協会は幸運です。

坂本さんが会長に就任した6年前、当協会は様々な困難や混乱に直面していました。その收拾に粘り強く当たり組織を立て直し今日の姿にしたのは、坂本前会長の大きな功績と言えます。会社社長のご経験からでしょうか、組織運営の手腕は流石でした。長年にわたる会長としてのお務め、まことにご苦労様でした。今後は協会のご意見番である顧問として、ご指導のほど宜しくお願い致します。（事務局、以下の関連記事も同じ）



2014 年度総会を開催

2月11日（火/祝）の14時から、菜宴（奈良市小西町）にて協会の2014年度総会が開かれました。参加者は新旧役員、一般会員合わせて21人で、委任状は38名でした。

議事の主な内容は以下の通りです。

坂本議長の議事進行のもと、まず2013年度の活動報告と決算報告・会計監査報告がなされ、原案どおり承認されました。なお、活動報告として各行事は順調に実施できたが、ホームページの更新やフランス語併記などで、改善すべき点が残ったとの補足がありました。

役員等の選出では、前述の三野会長の就任のほか、副会長に野島（濱は退任）、理事退任は坂本・三木・森井・中野の各氏、新任理事として南城・藤村・中辻、監事に三木、顧問に坂本、の各氏が承認されました。その結果、今年度の役員構成は次ページの通りとなりました。

＜＜三野新会長就任の挨拶＞＞

奈良日仏協会創立20周年となる記念の年に、第5代目の会長に就任いたしました。歴代会長は奈良における有力企業の社長や会長経験のある方ばかりで、今回初めて大学人の会長となります。私は、奈良日仏協会の創立直後に入会し、会員歴は20年近く、理事として15年、副会長として5年を務めました。この間、奈良女子大学においてフランス語・フランス文学の教育・研究に専念するかたわらで、学外では奈良日仏協会の活動を通じて、地域の方々との交流を持つことができ、貴重な体験をさせていただきました。

近年、本務校においては、大学評議員、文学部長を歴任し、管理運営業務にも携わりました。一般企業はもちろんですが、大学もまた、社会からの要請、文部科学省の指導と管理、高校サイドからの要望、他大学との競争など、きびしい外圧に晒され続けています。しかし、任意団体である奈良日仏協会には、そうした外圧はありません。他の文化団体と競う必要も無く、無理な組織拡大を図る必要もなく、ただ大事なことは、自主的に参加されている会員一人ひとりが、何らかのかたちでのフランスとの関わりを保ちつつ、楽しく交流すること、それに尽きると思います。

会長の職務は、そうした「場」の形成に向けて、他の役員の方々の協力と、会員の方々の支援を得つつ、微力を尽くすことだと心得ています。楽しい奈良日仏協会をめざします。よろしくお願い申し上げます。

創立20周年の今年は、5月11日（日）に奈良女子大学記念館において、フランス総領事をお迎えして記念式典の開催を予定しています。また『Mon Nara』特集号では、「私とフランス」をテーマとして会員のみなさんの原稿を募集しています。多くの方々のご参加を期待しております。

＜＜Mon Nara 特別号への寄稿募集！＞＞
締切日：3月末日 主テーマ「私とフランス」
P.8に詳細募集要項を掲載
本号は12頁立て。（P.9～ 法人会員の店紹介記事ほか）p.11：講座表。

会長：三野博司、副会長：ジャメ オリヴィエ・野島正興、事務局長：濱 恵介、理事(会計)：樋口順一、理事：浅井直子・仲井秀昭・井田眞弓・中浦東洋司・南城 守・藤村久美子・中辻純子、監事：三木正義の各氏。

続いて2014年度の活動計画と予算案が発表され、原案通り承認されました。活動計画についての主な新機軸は、(1)協会の主要な活動についてそれぞれ運営委員会の立ち上げ、(2) フランス語ガイドクラブの復活を含む日仏文化交流活発化 (3) フランス・アラカルトの多様化と充実、及び、(4) 創立20周年記念事業(記念式典・パーティ・Mon Nara 特別号発行)の実施です。予算については、創立20周年記念関連の出費のため、ほぼそれに相当する額だけ次年度繰越金が減少します。議題の最後として、家族会員の創設など会則の改訂が提案され、原案通り承認されました。

閉会に当たり、坂本前会長からは、「6年間にわたる協会の改革・運営や思い出深い様々な出来事を振り返る言葉。奉仕の精神で協力してくれた関係者へのお礼。そして今後の会のあり方に関する希望。」などが述べられました。

また、三野新会長のご挨拶では、「創立20周年を迎える重要な時期、歴代の一流企業社長の後を受け大学人として初めて会長となったこと。フランスとの交流を軸に楽しい会にするために何が必要か。黙々と仕事する私のスタイルで、全力を挙げて取り組みたい。」などの言葉がありました。

懇親会は終始なごやかに

総会に引き続き、恒例の懇親会が開かれました。三木監事の司会進行のもと、三野新会長のご挨拶、ジャメ副会長の陽気な乾杯ご発声で、楽しい宴が始まりました。様々な美味しい料理は、久保田会員経営の菜宴が準備、赤と白のフランスワインは濱事務局長の見立て・持ち込み。参加者同士のにぎやかな会話と参加者の紹介で、終始なごやかな雰囲気では進みました。その間、新任理事の中辻(梨里香)さんのシャンソンがあり、雰囲気は最高に。野島副会長の中締めのご挨拶の後も、すぐに席を立つ人がいません。皆さん居心地が良かったのでしょう、楽しくもまた知的刺激のあるひと時でした。

参加者は正会員も名前高め30名。



<<坂本会長退任の挨拶>>

会長退任に当り一言ご挨拶申し上げます。

奈良日仏協会は、1994年(平成6年)創立し、4月23日で20周年を迎えることになりました。この間、初代会長今西清吾氏が3年、2代目阪本龍児氏4年、3代目岡村元嗣氏が7年、私が引き受けて6年経過しました。この度、会長職を退任し、理事職も辞し、一会員として新しい執行部に未来を託したいと存じます。この場に至って、『もう6年経ったのか』というのが正直な感想です。

奈良日仏協会は、フランスが好きで、フランスに興味のある人々の集りであり、これまでもモンナラやホームページにも寄稿してきたように、私は、『日仏交流を図りながら、会員同志が楽しく親睦を深める会』にしたいと常に考えておりました。顧みますと：

- ・会計年度を3月から12月に変更。／・名簿・会計収支・電話など事務的整備。／・創立15周年記念パーティ。／・日仏交流150周年記念でミシェル・フローのシャンソンコンサート。／・サンジャン大聖堂聖歌隊リオン少年合唱団の受け入れ。／・「音楽の祭日 in 奈良女子大記念館」を奈良女子大仏文教室と共催。／・教養講座・お花見・フランスからの個人、団体の受け入れ等……

会長を引き受けた当初は、色々複雑な経緯のあった直後で、事務局長を3年兼務するなど苦しい時期がありましたが、お陰様で、紳士淑女の品格を保つ集団として認められてきました。過ぎ去ったモンナラをめくると、ボランティア集団としてはかなりの活動ができたと自負しております。

ここまでできたのも、裏方として特に支えてくださった理事の皆さんと会員諸氏のご協力のお陰であると存じます。誠に有難うございました。

新会長の三野博氏は、人物、識見、肩書き共に申し分のない立派な方です。遣り残したことは、まだまだありますが、これからは新会長を軸に、新しい執行部で奈良日仏協会が益々発展して行くことを希望いたします。

以上、退任のご挨拶とさせていただきます。

(坂本顧問↓)



MOI ET LE JAPON

私と日本

<< 2 >>

オリヴィエ ジャメさん ②

Q-2 (以下まず原文, 続いて日本語概訳)

Voulez-vous présenter les souvenirs de votre jeunesse?

(前回に引き続いて) ジャメ先生に若き日の思い出をお伺いいたしたく存じます。

Jamet :

. Il y a aussi ceux de l'Eglise russe, rue d'Aru, à côté de la Salle Pleyel, et des liturgies orthodoxes qui y étaient célébrés en slavon avec des choeurs émouvants, ainsi que le trajet quotidien de l'autobus 84 pour aller au Lycée Henri IV, qui me faisait traverser les « beaux quartiers », Saint-Augustin, affectionné par Marcel Proust, la Place de la Concorde, le boulevard Saint-Germain, Sèvre-Babylone (l'Hôtel Lutetia et le Bon Marché), la place du Luxembourg et la Rue Soufflot qui remonte vers le Panthéon...

Ce que je préférais par dessus tout était lire, écouter de la musique et me promener dans la nature

à suivre au prochain numero

プレイエルホールの傍のアリュ通りのロシア教会、魅惑的なコーラスとともにスラブ様式で行われる正教会の典礼の数々、リセ・アンリ 4 世校に日々通学する時の 84 系のバスなども私の記憶に残っています。この 84 系バスは、次のような美観街区を通過してくれるので毎日が「遠足」のようでした。— つまり、プルーストの愛したサントギュスタン教会、コンコルド広場、サン=ジェルマン大通り、セーヴル・バビロン (ホテル・ルテシアとボンマルシェ百貨店)、リュクサンブール宮広場、パンテオンに至る坂のスフロ通りなどです。とりわけ読書と音楽鑑賞、そして自然の中の散歩が私の愛好するところでした。(次号に続く)

名句の花束 フランス文学の庭から <31> 三野博司
会長・奈良女子大学教授

天に向かって伸びていく谷間の百合
LE LYS DE CETTE VALÉE où elle croissait pour
le ciel バルザック 『谷間の百合』 (1836 年)



脇道に逸れてばかりいますが、今回からは、ふたたび恋愛を巡る名句を紹介する……という本来の趣旨に戻ることしましょう。

「花咲く乙女たち」という西条八十作詞の歌が、そのむかしありました。もとはといえば、プルースト『失われた時を求めて』の第2編『花咲く乙女たちのかげに』からヒントを得て創られたようですが、この歌のなかでは、街で見かける女性たちを花々に例えています。カトレアのように派手で、鈴蘭のように愛らしく、忘れな草のように気弱な目をしていると歌われると、いかにもそれらしく感じられます。女性を花に例えたとすると、若紫、夕顔、末摘花など『源氏物語』の世界も思い浮かびますが、フランス文学の中であれば、やはり愛する女性を谷間に咲く清らかな白百合に見立てた『谷間の百合』でしょうか。

作者はオノレ・ド・バルザック Honoré de Balzac (1799-1850)。1799 年トゥールに生まれました。私の若い頃には、この地域はフランスでもっとも美しいフランス語が話されているといわれて、トゥールの外国人向けフランス語学校が人気でした。私もひと夏をトゥールで過ごしたことがあります。ただ、この街は第二次大戦の戦火で町の中心部が焼けてしまい、バルザックの生家は残っていません。その代わり、トゥール滞在中に、バルザックの短編小説『ざくろ屋敷』の舞台となった館を友人と訪れることができました。『バルザックとこだわりフランス』(2003 年, 恒星出版) という本があります。バルザックの作品とその舞台となった町や地域を、地図や写真を交えて紹介する便利なものですが、主として関西在住のバルザック研究者たちによるものなので、友人たちが執筆しています。「ざくろ屋敷」訪問記のなかには、私も同行者として登場します。ロワール河畔に立つざくろ屋敷は小さな建物でした。現在も住居として使われていて中には入れず、外から眺めただけですが、その所有者であるご主人の豪壮な館に招かれて、天井の高い広々とした応接間に通され、お茶とビスケットの歓待を受けたことを覚えています。(写真上:ざくろ屋敷, 次ページ写真:その所有者の大きな館)

「画ニメ ざくろ屋敷」(深田晃司監督, 2006 年) という DVD があります。画ニメというのは、細密なテンペラ画で書かれたアニメというようなもので、通常アニメにはない重厚な雰囲気が伝わってきます。「病に侵された美しい母、何も知らずに遊ぶ 2 人の子供、今なおフランスの田舎に実在するざくろ屋敷での幸福な生活、少年は大人への階段をのぼろうとしていた」と物語は紹介されています。

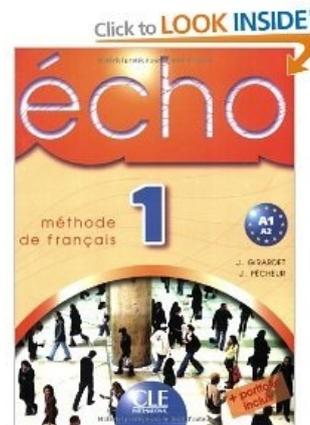
また脇道に逸れましたが、バルザックの伝記に戻りましょう。彼は母親から愛されない不幸な少年時代を過ごしたと言わ

会員主催講座訪問 ④

フランス語中級講座（火曜日・午後の部）

井田 眞弓（会員）

今年の1月から毎週火曜日の12:30~14:00に、藤原台のジャメ先生宅で行なわれているフランス語講座に通い始めました。7人のメンバーと一緒に勉強しています。教材には Écho 1 (CLE International) と A la page 2011 (Edition Asahi) を使用しています。Écho 1 は、フランス人の日常生活が垣間見られるような内容で、興味深いです。A la page : actualités françaises 2011 (時事フランス語) の方は、18歳未満の軽犯罪・移民・無職の問題などを扱っています。ディクテをしてプロジェクターに各自の解答を提示したり、インターネットで新しい事柄を知りながら、学んでいます。クラスのみなさんは、入会したばかりの私を暖かく見守ってくださいます。予習すれば、どうにかついていけます。話すのに que を使えるようになるのが、目標です。もしよろしければ、一度体験レッスン（無料）にいらっしやいませんか。

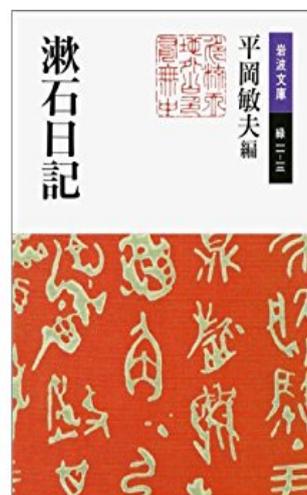


文化講座「ジャメ先生と漱石の『日記』を読む」開講のお知らせ

浅井 直子（会員）

漱石を日仏二カ国語で読む講座も3年目、今年度は漱石が様々な年代に記した「日記」を取り上げます。漱石自身の作品の登場人物とは近いようで遠く、遠いようで近い、生身の漱石の「人となり」が、「日記」を通じてそれとなく察知せられます。また、ところどころに自作の俳句も記されています。仏訳は未だ出ていませんので、ジャメ先生とともに私たちも新たな領域へと出立です。

(開講月)	(抜粋テキスト)	(テーマ)
第1回 4月	「ロンドン留学日記」より	《日本からの出立》
第2回 5月	「ロンドン留学日記」より	《英国人と文学知識》
第3回 6月	「『それから』日記」より	《小説執筆》
第4回 7月	「修善寺大患日記」より	《病床にて》
第5回 10月	「大正三年家庭日記」より	《妻は…》
第6回 11月	「大正五年最終日記」より	《子供と話》



◇第1回日時:4月12日(土) 11:00~13:00

◇参加費:各回 2,000円

◇テキスト:プリントを配布、日本語テキストには岩波文庫版を使用します。

◇当講座に興味をお持ちの方は、講座表中の連絡先までご連絡ください。

《 奈良日仏協会シネクラブからのお知らせ 》

2014年のシネクラブでは、「ミュージカル」と「トリュフォー」の二つの特集を組み、それぞれ二本ずつ作品を紹介する予定です。日程・プログラムとも変更する場合がありますが、直前のモンナラであらためて案内を致します。ご期待ください！

☆フレンチ・ミュージカル特集

1)4月26日(土)『シェルブールの雨傘』(1964年, ジャック・ドゥミ)

2)6月29日(日)『愛のあしあと』(2011年, クリストフ・オノレ)

☆フランスワ・トリュフォー特集 (10月~)

問い合わせ: 浅井直子 Nasai206@gmail.com tel. 0743-74-0371

116回「フランス・アラカルト」に参加して

浅井 直子 (会員)

2014年1月16日(木)、奈良市西登美ヶ丘のカフェ“マルディ・マルデイ”にて開催された第116回のフランス・アラカルトのゲストは、ロイック・ル・テクシエ (Loic Le Texier) さんでした。(写真) 苗字の「ル・テクシエ」に「ル」がつくのは、ブルトン人特有の名前とのこと。自分の生まれ育ったブルターニュのお酒「シュシェン」(Chouchen) や「イドロメル」(Hydromel) やお菓子その他の紹介に続いて、いろいろな面白いエピソードをきかせてくれました。例えば、留学先のスコットランドのエジンバラで、ケルト文化と出会ってブルトン人としてのアイデンティティに目覚め、帰国後ケルト音楽を勉強するようになったこと、アニメや北野武監督の映画「花火」をみて日本が好きになったこと、はじめて日本を訪れた時は女性がみんなきれいに思えて、フランスに帰ってからお母さんに熱っぽくその話をすると、「そんなに日本がいいなら、日本に帰れえ！」と怒られたこと等々。



現在は西宮在住、すでに日本でのフランス語講師歴も10年になるそうです。日本人にフランス語を教える際の秘訣は？ という問に対して「イギリスの代表的な劇作家がシェークスピア(悲劇)なら、フランスはモリエール(喜劇)だから、ユーモアを大事にして、生徒さんを笑わせ楽しませること」と、答えてくれました。



第117回フランス・アラカルトのご案内

- ◆日時: 2014年3月20日(第3木曜) 15時から17時
- ◆会費: 会員1500円、非会員1800円(ケーキ2種・飲物共)
- ◆場所: ならまちセンター内の「なららカフェ」駐車場有り、
<http://tabelog.com/nara/A2901/A290101/29008146/>
<https://www.facebook.com/nararaPancafe>



ゲストは奈良市杉ヶ町の《Pâtisserie KARAKU》シェフ・パティシエの岩崎能久(よしひさ)さん。↑
<http://www.karakunara.com/> : 又は [facebook.com/yoshihisa.iwasaki.5](https://www.facebook.com/yoshihisa.iwasaki.5)
 岩崎シェフのフランスの伝統菓子についてのお話とノルマンディーとアルザスの伝統ケーキを特別に作って頂く。◎申込み先は: naracarte@gmail.com 又は 070-5504-1881 (仲井まで)
 定員30名、内15名は会員。定員になり次第、締切となりますので、なるべく早めにお申し込み下さい。

◆フランス・アラカルトの開催方法や内容を一新します。

かつて会のメインの活動であり、フランス文化の様々な分野の紹介の場であった在り方を復活させます。「テーマを1つ+現場主義」を基本方針として毎回いろんな場所でその道の専門家を招きます。以上の考えに賛同の会員の皆さま、フランス・アラカルトにぜひご参加ください!



◆理事会の報告◆—事務局— 第7回、第8回理事会の概要をお知らせします。

第7回理事会 日時:2014年1月13日(月・祝)14:00~17:00、場所:菜宴

出席者:坂本、三野、ジャメ、濱、浅井、井田、仲井、中浦、中野、野島、三木、森井 各理事

議題1. 会長所信表明及び新会長選出

三野副会長を次期会長とすることを全会一致で承認(総会当日付け)。同日退任する坂本氏を名誉会員に推挙の件も承認。

議題2. 活動状況報告(内容省略)

議題3. 総会の議事計画: 2月11日に開催する。以下の提出議題を検討。一部修正をした上、承認。

1) 総会議事次第、2) 2013年度活動報告、3) 2013年度決算報告、4) 2014年度役員改選:以下を承認、副会長:濱→野島、理事退任:坂本・森井、顧問:坂本。

5) 2014年度活動計画:フランス・アラカルトの内容の多様化と充実、フランス語ガイドクラブの復活、記念事業の実施、各種運営委員会の設置など。6) 2014年度予算:20周年記念事業の支出予定が大きく、次年度繰越が大幅に減少。7) 会則の改訂:家族会員の開設、個人会員を法人に優先等。

議題4. 総会後の懇親会

昨年同様の簡素な趣向とコストで、総会と同じ場所(菜宴)で行う。返信用ハガキにて理事候補の参考情報を収集。

議題5. 20周年記念式典等の準備

式典の記念講演者はジャメ副会長を加え3名。懇親パーティ会費の内定。

議題6. その他:Mon Naraの発行予定。協会の電話を2月末で廃止、FAXは三木理事の専用機を兼用。

第8回理事会 日時:2月1日(土)16:00~17:10、場所:同上

出席者:坂本、三野、濱、浅井、井田、仲井、中浦、中野、野島、樋口、三木 各理事

議題1. 役員候補の最終決定

前回の案に加え、中野理事の退任及び南城監事を理事に、三木理事を監事にする候補案を承認。新たに登用する理事候補として、会員の藤村久美子さんと中辻純子さんを承認。

議題2. 総会・懇親会の準備:総会の進行手順及び提出資料の確認、申し込み状況の報告など。

議題3. その他: ホームページに古いコンテンツが多く更新を急ぐこと。

◆全会員参加! Mon Nara 特別号へご寄稿を ◆

ご承知のとおり、当協会は今年4月に創立20周年を迎えます。5月11日(日)には記念行事を実施し、また、初夏には20周年記念誌「Mon Nara 特別号」の発行を計画しています。その中心は全会員からの寄稿文です。「私とフランス」という共通テーマすでにご寄稿をお願いしておりますが、個別のタイトルは自由にお付け下さい。ご自身とフランスないしフランス語、フランス文化との係わり、それらに関する思い出などをもとに執筆願います。また、短文、挨拶文や自己紹介程度でも結構です。これは会員の全員参加による特別企画です。会員相互に読み合うことで、親睦と相互理解につながることを存じます。執筆と提出の方法は下記のとおりです。(印刷仕上りは横書き、白黒を予定)。

———<< 執筆・提出要項 >>———

(1) 原稿文字数:最大1700字、最小300字、(フランス語の場合)最大600語。

(印刷仕上がりは、原則として一人当たり最大A4判1ページ、最小1/4ページ程度)

(2) 形式:可能な限りWORDでの執筆・提出をお願いします。ご希望の方にはテンプレート(様式を整えたワードファイル)をEメールで送信します。手書きの場合は、同封の原稿用紙をご活用ください。他の用紙でも結構です。

(3) 写真:ご本人の顔を含む写真を1点添付して下さい。文章に関連した古い写真でも結構。これもデジタルデータが望ましいですが、プリントも受け付けます。お借りしたプリントは、完成した特別号に同封して返却します。

(4) 提出先/問い合わせ先:

(データの場合)Eメールにて末尾□内のアドレスへ送信。(紙の原稿)返信用封筒で、末尾の私書箱30号迄。ご質問は、編集担当理事・中浦又は事務局長・濱が承ります。(電話番号は会員名簿に掲載)。

(5) 提出期限:2014年3月31日

E-mail: afjn_info@kcn.jp FAX 0742-62-1741

〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第30号[郵便物のみ]